

社会教育の在り方に関する特別部会

# 青少年教育施設等における 青少年の体験活動の推進方策

---

2025年12月11日

國學院大學 青木康太朗

# 本日お話ししたいこと

1. 青少年の体験活動やその推進に資する民間活力の活用も含めた青少年教育施設の在り方
2. 青少年の体験活動に携わる人材の資質向上
3. 関係団体や民間企業等の多様な主体との連携・協働を促すネットワークの強化



# I. 青少年の体験活動やその推進に資する 民間活力の活用も含めた青少年教育施設の在り方

近年、施設の老朽化や少子化に伴う利用者数の減少などにより、公立施設では統廃合や指定管理者制度・PFIの導入が進み、青少年教育施設の在り方も変化の時を迎えている。



## <提言4>

### 今の時代に相応しい青少年教育施設 の在り方の検討

- ✓ 住民のニーズに応えた青少年教育施設  
の在り方の検討
- ✓ 施設の長寿化や改修、設備更新等に対  
する補助
- ✓ 青少年教育施設職員の野外教育に係る  
資格取得の推奨
- ✓ 外部との連携・協働体制の強化

# 国立青少年教育施設の振興方策について（報告書）【概要】

## 前提となる現状

- 国立青少年教育施設の**利用者数の減少**  
※学校利用の減少／オンライン研修・打合せの増加
- 子供たちの**体験機会の減少**
- 社会における**デジタル環境の進化**
- 人口減少社会（特に**少子化の影響**）
- 施設の**老朽化や収支状況の悪化**

## 必要となる視点

- 青少年教育のナショナルセンターとしての取組の**明確化**
- 施設の**利用促進**に向けた取組の実施  
➡ 今後の国立施設の**在り方の再検討**  
併せて、持続可能な施設経営に向けて
- 適切な**インフラマネジメント**の徹底
- 管理運営の改善（**経営の視点**の導入）

## 報告書の骨子

### 1. 青少年教育のナショナルセンターとしての機能

- 法人経営の観点から、備えるべき施設や機能を取捨選択
- 社会的意義を意識した全体戦略の策定
- 組織風土の改革  
(必要な取組例)  
・先導的取組の開発や実践研究                   ・内部人材育成  
・指導者養成    ・国際交流

### 2. 国立青少年教育施設の利用促進

- 専門的知見を生かした体験機会の提供
- 提供するプログラムにマーケティングの視点を導入
- 地方施設の魅力化に本部の主体的な関与の徹底  
(必要な取組例)  
・地域特有のプログラム提供                            ・新たな利用者層の獲得  
・直接指導の充実                                        ・魅力的な施設への転換  
・新たな形態での青少年教育提供                      ・適正な利用料金の設定                           等

### 3. 国立青少年教育施設のインフラマネジメントの徹底

- 適正なインフラマネジメントの徹底（事後保全から予防保全へ）
- 技術系職員の不足に対して早急な対応の必要性
- 実施する取組に応じた施設（ハード）の必要性の確認
- 施設の清潔さを保つためのメンテナンスの徹底
- インフラマネジメントに民間活力の活用の検討

### 4. 国立青少年教育施設の運営改善

- 国立施設の機能・規模の再検討
- 国立施設の運用自体の再検討
- 法人運営における経営の視点の導入
- 施設更新や運営に民間活力の活用の検討
- 管理運営業務の効率化（ルールの改善・DX化など）

### 5. 今後の国立施設の在り方

- 国立青少年教育機能の強化に向けて、**拠点機能**を**担う国立施設**を一定のエリアごとに特定
- 施設の数・規模や宿泊定員の見直し、機能の適正化、再編などの**機能別分化**の**検討**
- 経営改善に資する業績の評価を行うため、青少年機構全体の**目標管理体制**の**徹底**  
➡ 拠点施設の設定と機能別分化の検討は速やかに着手し、結論が出た施設から、順次、機能強化や縮小・再編の取組を推進。  
➡ 次期中期目標期間（R8～R12）中に、全ての施設の機能別分化について具体的な結論を得る。

# 全国 28か所！

施設の詳細は  
こちらから▼



1 クロスカントリースキーの大雪

2 -20℃パウダースノー 日高



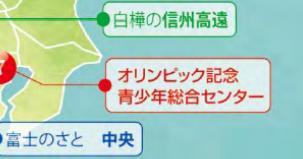
3 山・雪・みちのく 岩手山



4 沢活動の花山



5 山と湖の磐梯



6 川と森の楽校  
那須甲子



7 環境の森 赤城



28 常夏四季(とかしき)アイランド 沖縄



引用: 国立青少年教育振興機構「全国の国立青少年教育施設のご案内(リーフレット)」

# 「体験の機会の充実」からみた 国立・公立青少年教育施設のSWOT分析

<b>Strength(強み)</b> <ul style="list-style-type: none"><li>○自然環境に恵まれている</li><li>○民間の宿泊施設に比べて低コストである</li><li>○多様なプログラムが提供できる</li><li>○地域・教育機関との連携がある</li></ul>	<b>Weakness(弱み)</b> <ul style="list-style-type: none"><li>○設備が老朽化している</li><li>○スタッフ・予算に制約がある</li><li>○規則や手続き上の柔軟性に欠ける</li><li>○マーケティング・マネジメントの視点が不足している</li></ul>
<b>Opportunity(機会)</b> <ul style="list-style-type: none"><li>○エコツーリズム、アウトドア活動の機運が高まっている</li><li>○デジタル技術の活用で利便性向上等ができる</li><li>○円安、国内の物価上昇により「コスパ」「節約」を重視する消費マインドが高まっている</li></ul>	<b>Threat(脅威)</b> <ul style="list-style-type: none"><li>○天候変動・自然災害リスク</li><li>○少子化・人口減少による学校単位の利用者数の減少</li><li>○予算削減</li><li>○民間の宿泊施設やレジャー施設との競争</li></ul>

出所：浜銀総合研究所作成

# 魅力的な施設への変貌には総合的な改革が必要

## 多様な視点による改革の方向性

- ✓ 利用者のニーズを重視したサービスを提供する『マーケットイン』の考え方の導入
- ✓ 利便性、快適性、安全性の観点からの利用者サービスの充実や利用者に対するホスピタリティの向上
- ✓ 地域特有の素材（自然、歴史、文化、産業等）を生かした教育研修プログラムの開発
- ✓ 教員の負担軽減に向けた直接指導の充実
- ✓ 施設利用を前提としないアウトドア型の取組の実施
- ✓ 大人向け、シニア向け、ファミリーや外国人向けといった新たな利用者層の開拓に向けた取組の検討
- ✓ デジタルマーケティングを取り入れた広報施策の改善や充実 等



# 利用者数が増えている施設は 「子供の保護者の声を反映した企画」に力を入れている

## 設定している利用者層（ターゲット層）

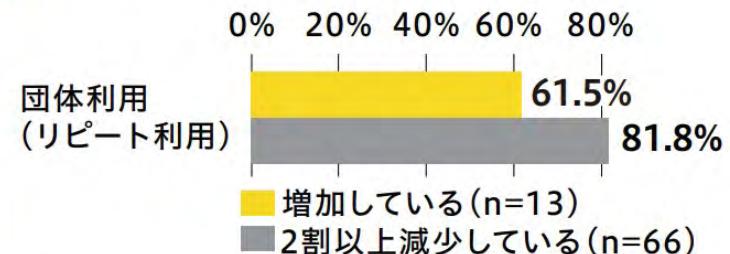
施設が設定しているターゲット層のうち、「保育・学校・青少年団体等のリピート利用」と回答した割合を比較すると、利用者数が増えている青少年教育施設は61.5%、利用者数が2割以上減少している青少年教育施設では81.8%となっていました。利用者が減少している施設は、学校や青少年団体等の団体のリピート利用をターゲット層と回答した傾向があります。

## 特に力を入れている体験活動プログラムの特徴

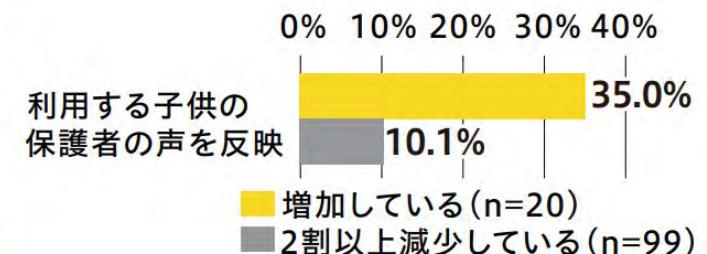
「利用する子供の保護者の声を反映した企画・プログラム開発等を行った」と回答した割合は、利用者数が増えている青少年教育施設は35%であったのに対して、利用者数が2割以上減少している青少年教育施設では10.1%でした。利用者が増えている施設では、「子供の保護者の声を反映した企画」に力を入れている傾向がありました。

進行する少子化等を踏まえると、学校団体の受け入れ事業への過度な依存等、これまでの運営の在り方を見直す必要があるのかもしれません。

### 設定しているターゲット層



### 力を入れている体験活動の特徴





体験活動のニーズを考える(子ども・保護者の視点)

## 子どもが参加する体験を 選ぶ時に重視するポイント

1. 子どもの好奇心をくすぐる内容であること
2. 普段の生活や学校では体験できない内容
3. 子どもが自分でできて達成感が感じられること
4. (動物とのふれあいなど) 思いや  
りや自然の大切さがわかる内容  
であること
5. 自然や季節が満喫できること  
など

参考:いこーよ総研「いこーよ2024年3月ユーザーアンケート」

体験活動のニーズを考える(子ども・保護者の視点)

## 子ども・保護者が望む体験活動

<子どもや保護者がしたいけど(してほしいけど)・できていない体験活動>

- ✓ お店や会社などでの職業体験
- ✓ 農業や林業、漁業での勤労生産体験
- ✓ 外国人と交流する国際交流体験
- ✓ 実験や新しい技術にふれる科学体験
- ✓ 自然の中で生き物や植物を探って食べる食育体験
- ✓ 自然を観察したり調べたりする自然観察体験



子どものしたいことや保護者のしてほしいことの上位に、山や海、川などの自然体験、異年齢・異世代交流、社会貢献活動、地域行事などが挙がっているが、これらの活動は実際にしている割合も高くなっている。

## 利用する施設を決める時に 重視することや満足度に影響すること

### <重視すること>

1. 安全管理の体制が整っている
  2. 施設・設備が充実している
  3. 自然環境が豊かである
  4. 例年利用している
  5. 食物アレルギー等に対応する
- など

### <満足度に影響すること>

1. 宿泊室や研修室等の清潔さ
2. 施設・設備の充実度
3. 施設等の使用料や食事料金などの料金
4. 安全管理体制の充実度
5. 自然環境や近隣施設などの立地環境

### 利用する施設を検討する時に参考にした主な情報

など

- 自校の教職員からの情報
- 施設等のホームページ
- 施設等のパンフレットなどといった紙媒体の案内情報

など

実践事例紹介

# 家族向けのお泊りパック

3連休の家族向け「お泊りパック」とすることで、「泊りがけの家族旅行」を競合として想起させる

アウトドア初心者に向けて、スタッフによるレクチャーがあることをアピール

「火起こしレクチャー」「包丁の使い方講座」等、子供の体験や学びの場があることを保護者目線の価値でアピール

「特典」、「プレゼント」でお得感を演出



お泊りパック全体を1団体として管理できるので稼働するスタッフを減らせて、運営コストも削減できる仕組み

宿泊料金が割高な連休の家族旅行で、遊んで食べて泊まって1泊2日大人8,000円という割安感のある価格設定

Googleフォームのみの受付にすることで、予約のしやすさを改善。チラシ裏面のQRコードからすぐに予約フォームにアクセス

申込開始日の直前に手元に届くように、チラシの発送日やSNSの告知日を調整

## デジタルマーケティングを取り入れた広報施策の改善や充実

個人・家族利用をターゲットにするなら知っておきたい！

### 消費者行動モデル AISAS の紹介

AISAS(アイサス)とは、消費者が実際に商品を認知してから購入するまでの購買行動モデルの一つです。2005年6月に株式会社電通が商標登録した用語です。Attention(注意)、Interest(興味)、Search(検索)、Action(行動)、Share(共有)の頭文字をとったもので、特にインターネットが普及した現在における消費者行動を説明するのに適しています。また、AISASは、例えば年に数回の家族旅行のような、購入金額が高く、検討に時間をかける商品・サービスに有効です。



引用:株式会社浜銀総合研究所(2025)「変化を起こす!新たな利用者層を呼び込むマーケティング実践アイデア」パンフレット

AISAS モデルで実践例をチェック

## 家族利用を増やす具体例! 大阪府立少年自然の家の取組

新規利用者	リピーター
 <b>Attention</b> 認知・注意	<ul style="list-style-type: none"><li>✓ <b>学校経由のチラシ配布</b> 学校が団体利用した時に、家族向けイベントのチラシを渡す。確実に子供一人一人の手に渡る。家族利用ができる施設であることが認知される。</li><li>✓ <b>公立施設でのチラシ開架</b> 大阪府下の図書館、公民館など公立施設でチラシを開架。公立施設が開催するイベントという安心感で訴求。</li></ul>
 <b>Interest</b> 興味・関心	<ul style="list-style-type: none"><li>✓ <b>子供からの口コミに興味</b> 学校の団体利用の後に、子供から保護者にチラシを見せてることで、楽しかった体験が子供から保護者に口コミされる（「子供が楽しかったとのことで、家族で来ました」という声）。学校が利用する施設であるという安心感。</li></ul>
 <b>Search</b> 検索・検討	<ul style="list-style-type: none"><li>✓ <b>インターネット等で検索・比較</b> 競合する連休時期の家族旅行のツアーと比較すると、価格が割安でお得であると感じる。</li><li>✓ <b>Instagram等のSNSにアクセス</b> QRコードからInstagramにアクセスすると、写真で過去のイベントの様子や参加者の反応を確認できる。</li></ul>
 <b>Action</b> 行動・申込	<ul style="list-style-type: none"><li>✓ <b>簡単な申込プロセス</b> チラシのQRコードや、Instagramのリンク、LINEの告知から、予約用のGoogleフォームにアクセスでき、簡単に申込みができる。</li><li>✓ <b>タイミングのよい申込開始と簡単な申込プロセス</b> 申込開始日のタイミングに合わせて、チラシ配布やSNS告知を行っているので、認知・興味を持ってから、行動に移すまでスムーズに進むことができる。</li></ul>
 <b>Share</b> 共有	<ul style="list-style-type: none"><li>✓ <b>SNSの反応等で拡散</b> 参加した家族は、公式InstagramやFacebookに上げられる写真に反応。保護者のコメントやリアクションは、投稿をみたフォローや、保護者の知り合いにも情報が広がる。</li><li>✓ <b>参加者の口コミ</b> 参加した家族が、別の家族に口コミをして、次のお泊りパックや別のイベントと一緒に参加。（お泊りパックの参加をきっかけに、リピーターになる人は多い。リピーターが友人に声をかけて新たな利用につながっている。）</li></ul>

引用:株式会社浜銀総合研究所(2025)  
「変化を起こす!新たな利用者層を呼び込む  
マーケティング実践アイデア」パンフレット

## 2. 青少年の体験活動に携わる人材の資質向上

### 体験活動の分類

- ✓ 生活・文化体験活動(放課後に行われる遊びやスポーツ、地域における年中行事 等)
- ✓ 自然体験活動(登山やキャンプ、ハイキング、星空観察、動植物観察 等)
- ✓ 社会体験活動(ボランティア活動や職場体験活動、インターンシップ 等)



### 放課後や休日における体験活動の場や機会

#### 場 所

青少年教育施設 公民館 博物館  
科学館 動物園 図書館 児童館  
スポーツ・レジャー施設 プレイパーク  
フリースペース 子ども食堂 等

#### 団 体

子ども会 青年団 PTA 町内会  
スポーツ少年団 総合型地域スポーツ  
クラブ 自然学校 YMCA・YWCA  
ボーイスカウト・ガールスカウト 等

#### 企 業

学習塾 スポーツクラブ 旅行会社  
教育CSR活動に取り組む企業 等

#### 取 組

地域学校協働活動 放課後子供教室  
放課後児童クラブ 土曜学習応援団 等

# 体験活動に携わる人材の資質向上のためには

体験活動の企画・運営や指導法、安全管理、子ども理解などに加え…

- ✓ 体験を通じて青少年の学びや育ちを支援する方法や考え方
- ✓ 青少年の視点や意見を尊重し、参画（意見形成、意見表明、意見反映等）を促す関わり方
- ✓ 青少年に関する指導者としての心得や倫理観（子どもの権利擁護、差別・偏見・ハラスメントの防止等）について学ぶことが大切

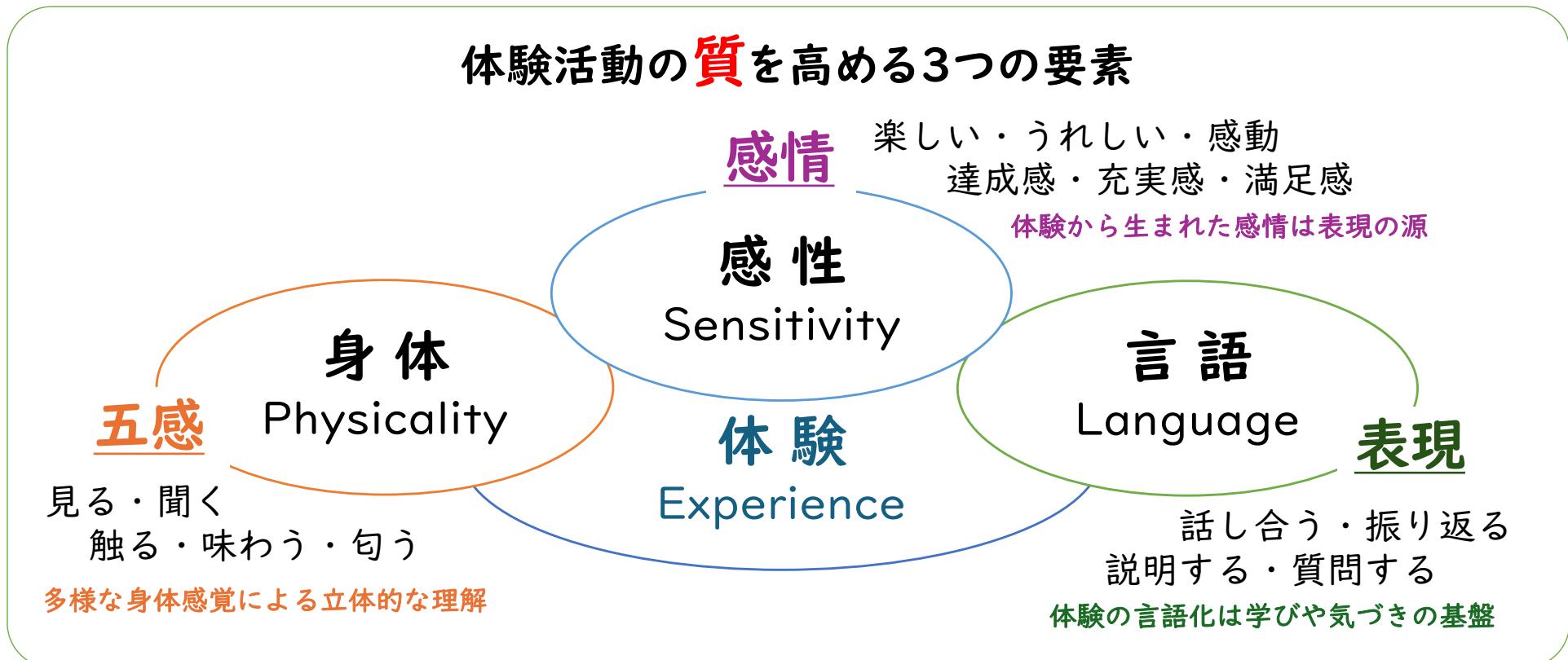


安心・安全な環境を作り、質の高い体験活動の提供につながる

# “体験する”ということの考え方

体験をするということには…

何かしらの**活動**や**行為**を“すること”だけを意味するのではなく、その活動や行為を通じて得られる**感情**（うれしい、悔しい等）や**気づき**（分かる、発見する等）、**学び**（理解する、できるようになる等）など、**体験の質**に関わる部分も含まれる。



# 豊かな体験とは何か



体験の多様さや回数の多さを表しているのではない。

豊かさの本質は、ワクワク、ドキドキ、楽しい、うれしい、悲しいといった様々な情動や感情が喚起され、心が大きく揺れ動くような体験の豊かさにある。

## 体験の質を見るポイント

### その体験は…

- ✓ 子どもたちが夢中になって取り組める活動なのか
- ✓ 子どもたちの心が動かされるような体験になっているか

### その体験を通じて…

- ✓ 子どもたちがどういった気づきや学びが得られているのか

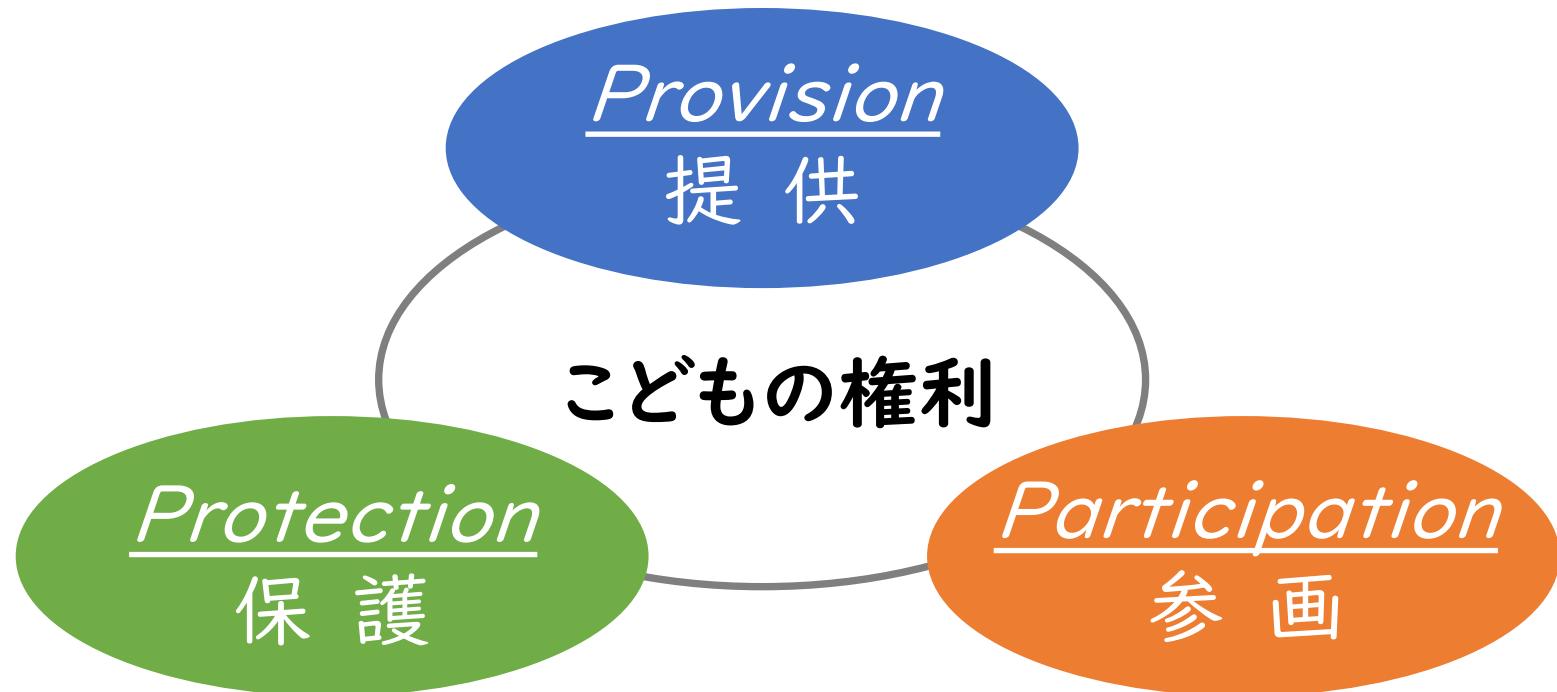
# こどもまんなか社会で 青少年教育指導者に求められることは何か

- ✓ これからの中等教育では、子どもを権利の主体として捉え、子ども・若者の視点や意見を尊重し、対話を重ねながら共に進めていくという姿勢をもつことが大切になる。
- ✓ これまででは、指導者がよいと思う活動を考え、子どもたちに提供してきたが、これからは、大人の視点や価値観だけでなく、子どもたちの「やりたい！」という声にも耳を傾けながら、よりよい活動を共に考え、創り出していくことが求められる。
- ✓ 今後、指導者に求められることは、こどもまんなか社会へと変わることに対応するのではなく、指導者自身が青少年に対する意識を変え、体験活動の場や機会の提供を通じてこどもまんなか社会を作り上げていくことである。



# 子どもの権利を守るには

教育や支援の対象としてサービスを提供したり、保護したりするだけでなく、社会形成過程への参画を保障していくことが大切



- 青少年の体験活動においても、子ども・若者をコ・デザイン(Co-Design)に取り組むパートナーと位置づけていくことが望まれる。
- 子ども・若者をコ・デザインのパートナーとすることは、子ども・若者のエンパワメントにつながるだけではなく、子ども・若者の思いに即した活動の実現にもつながりる。

# 子ども・若者の意見反映の難しさ

子ども・若者の参画を実現するためには、大人が意見表明・意見反映の場を設ける必要があるが、実際に取り組むには課題も多い。

<b>意見形成 をめぐる課題</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>✓ 参画機会を設けても、<u>子ども・若者自身が自分の内にある思いをすくい取れていなかつたり、意見の形成に必要な情報が不足していたり</u>することがある。</li><li>✓ こうした場合、意見を求める「何でもいい」「よくわからない」「決めてほしい」という声が返ってくることになる。</li></ul>
<b>意見表明 をめぐる課題</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>✓ 意見が形成されても、安心の風土が醸成されておらず、子ども・若者が周囲からの反応に対して不安や懸念を抱いて、<u>表現することを躊躇したり、意見を曖昧にしたり</u>することがある。</li><li>✓ 「何を言っても大丈夫」と思える場をつくりつつ、自らの思いを適切に表現できるよう多様な方法を示す必要性が出てくる。</li></ul>
<b>意見反映 をめぐる課題</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>✓ 意見が表明されても、子ども・若者同士や子ども・若者とスタッフの間において<u>意見が一致せずに葛藤を生む</u>ことがある。</li><li>✓ 全ての意見をそのまま反映できることは少なく、合意形成の対話は難しさが伴う。</li></ul>

# キャンプ指導者のための倫理ガイドライン

キャンプの現場において、キャンプ指導者が倫理的・社会的責任を果たすための心構えや問題への対応等について紹介



## キャンプ指導者的心得

キャンプ指導者とキャンパーの信頼関係の構築／差別やハラスメントの防止／自然環境への配慮／キャンプと現代社会

## 倫理的な問題への対応

指導者の影響力／倫理的な問題を生じさせ得る構造的要因／アンコンシャス・バイアス(無意識の思い込み・偏見)への気づきと対処／キャンプ指導者とキャンパーの適切な距離感(プロフェッショナル・バウンダー)を育む

### 3. 関係団体や民間企業等の 多様な主体との連携・協働を促すネットワークの強化

#### 多様な主体による体験活動を推進するプロジェクトチームの結成

- ✓ 地域で取り組むべき課題や目標の共有し、それぞれの役割や連携の在り方を明確にする。
- ✓ チームの活動拠点となる場所を設ける。
- ✓ プロジェクトを推進するコーディネーターを発掘・養成・活用する。
- ✓ 地域の新たな教育力として企業（教育CSR）を巻き込む。
- ✓ 体験の場や機会と青少年・保護者をつなぐ仕組みを作る。
- ✓ デジタルプラットフォームを活用する。

<既存の枠組みを活用>

地域学校協働活動、地域ぐるみで『体験の風をおこそう』運動推進事業 等

# 今後むけて

- ✓ 青少年教育の本質は、多様な体験や活動を通じて青少年の生きる力をはぐくみ、将来に向けて社会的自立を支援していくことである。
- ✓ これからの中での青少年教育は、教育の枠にとどまることなく、地域コミュニティの中で、遊び場・居場所づくり、文化・スポーツ活動、環境学習、国際交流・多文化共生、地域づくり・まちづくり、障害のある人たちとの交流、キャリア・職業教育といった多様な分野で展開されることが望まれている。
- ✓ 多様な主体が課題や目標を共有し、連携・協働を図りながら、体験活動の場や機会を意図的・計画的・継続的に作っていかなくてはならない。
- ✓ 「施設」はそのための場であり、「人材」はその機会を作る支援者であり、「連携・協働」は青少年の健やかな成長と自立を支える環境づくりである。

## 今後の課題

**施設** ▷ 財政的な支援(改修、修繕、ICT化等)

**人材** ▷ 研修の実施(青少年や体験活動に関する最新情報の提供等)

**連携・協働** ▷ コーディネーターの発掘、養成、活用